

第2学年 算数科学習指導案

1 単元名 めざせ！ かけ算名人（「かけ算」）

2 単元について

(1) この単元で培いたい力

乗法九九は、以後の学年で取り扱う乗法の計算における基礎的な技能として欠くことのできない重要なものであり、完成した乗法九九を唱えることで、結果が簡単に求められるというよさがある。乗法九九を構成したり理解したりするにあたっては、体験的な活動や身近な生活体験などと結びつけるなどして、九九に習熟し、確実に答えを求められるようにすることが大切である。本単元の指導では、かけ算の意味を理解し、かけ算を使うことのよさを実感し、進んで用いていこうとする児童を育てていくことが大きなねらいである。そのために、ペアや全体での話し合いを通して九九の規則性に気付くこと、九九カードや個に適したワークシートなどを用いて習熟させること、学習の場面と、体験的な活動や身近な生活体験などと結びつけることを指導の重点とする。これにより、乗法の意味や倍概念の理解を深めたり、楽しみながら技能の定着を図ったりすることができるのではないかと考える。

(2) この単元で培いたい力についての児童の実態

(3) 課題解決能力と共感性を高める支援

ア 課題や見通しを明確にもつために

自力解決の時間を十分に保障し、操作活動や念頭操作で、既習内容を生かして考えをつくり出す過程を大切にしていきたい。そのために、ワークシートを工夫したり、前時までに学習してきた内容やよい考えや方法を、算数コーナーや背面掲示などに残していき、課題解決の見通しに活かせるようにしていく。また評価表を活用し、児童が毎時間学習課題を確認し、自己評価していく中で、単元の流れをつかみ、主体的に学習できるようにしていく。さらに、児童の「算数日記」から取り上げた実生活と結びついた適用題や、コンピュータを取り入れ楽しみながら力を伸ばすことができるような場の設定を行うことで、かけ算でできる、かけ算が使えるよさを味わわせるようにしたい。

イ 学び合い、共感性を高める場の設定

ペアでの交流を重視し、自分の考えをより確かなものにし、どの子も積極的に全体の話し合いの場に臨めるようにしたい。ゲーム的な活動もペアで行い、友達とかかわって学習していくことの楽しさや充実感を味わわせたい。勝ち負けではなく、なぜそう考えるのか、自分の考えを筋道立てて説明することを大切にしたい。そして、全体交流の場では、「同じところ・違うところ・いいところ」など友達の考えを聞くときの視点をもたせ、友達の考えとの相違に気付きながら、よりよい解き方を見つけたり、自分の考えを見直したりできるような支援を工夫していく。そのために板書計画やコンピュータを取り入れた学習場面など工夫して、一人一人の考えが他の児童に視覚的に分かりやすくとらえられるようにしたい。

3 単元の目標

- ・かけ算に関心をもち、身の回りからかけ算で表せる数量の場面を進んで見つけようとする。
- ・乗法の性質や乗法の交換法則を基に乗法九九を構成することができる。
- ・かけ算の式に表したり九九を唱えたりして問題を解くことができる。
- ・記号「×」や用語「かけ算」、「～倍」の意味、単位とする大きさのいくつ分かを求めるときにかけ算を用いればよいことが分かる。

4 単元の計画(全34時間)

次	時	学習活動	資質・能力育成のための支援 課題解決力 見見通し 共感性	評価規準
一	1	かけ算の用いられる場面といくつかの考え方を理解する。	見 同じ数ずつでないものとの比較を通して、基準量の存在をはっきり感じさせる。	【関】基準量が違う図と同じものを比べてかけ算の用いられる場面を探そうとする。
	2	かけ算の意味と式について理解する。	課 半具体物の操作を通して、「何のいくつ分」を意識して式とつなぐようにする。	【知】基準量のいくつ分で式で表せることやかけ算の答えは基準量の何倍で求められることを理解する。
	3 4	かけ算の用いられる場面を式に書き、答えを出す。	見 いろいろな場面の問題を解くことにより、「なんばい」や「いくつ分」というイメージをもたせる。	【表】いろいろな場面をかけ算の式に表し、累加で答えをたすことができる。
	5 13	5,2,3,4の段の九九を構成し、九九の唱え方を知り、九九を使って文章題を解く。	課 身の回りの乗法の場面の絵から乗法の意味理解ができるように具体物や半具体物を準備しておく。 見 既習の段の答えの求め方を振り返ることを通して2,3,4の段の答えの出し方が予想できるようにする。	【関】絵や図や半具体物に表し、操作しながら乗法で表そうとする。 【考】基準量をもとに1倍から9倍までの答えを累加法で求めることが理解できる。 【表】5,2,3,4の段の九九を確実に唱えることができる。
	14 19	5,2,3,4の段を使って課題に取り組み、理解を確かにしたたり、深めたりする。 (本時)	課 身の回りから、かけ算の問題を作る活動を通し、実生活の問題に進んでかけ算を取り入れられるようにする。 共 友達とかけ算の問題を解き合うことで、かけ算についての理解を深めさせる。	【関】問題の場面を見て、進んで式化したり、問題文を作ったりしようとする。 【考】生活場面の絵を見て演算を決定し、作問することができる。
二	20	アレイ図を使ってかけ算を構成する。	見 アレイ図の使い方を知らせ、同じ色の縦の列が基準量を表し、かけ算の答えが出しやすくと見通しをもたせる。	【関】アレイ図の便利さが分かり、かけ算の構成を積極的にしようとする。
	21 29	6,7,8,9,1の段の九九を構成し、九九の唱え方を知る。 6,7,8,9,1の段の九九を使って文章題を解くことができる。 (本時)	共 6,7,8,9,1の段のかけ算をアレイ図を使って累加の方法で構成しても、違った方法で工夫して構成しても答えが出せることの話合いをさせる。 課 身の回りの6,7,8,9,1の乗法の場面の絵から乗法の意味理解ができるように具体物や半具体物を準備しておく。	【関】アレイ図を使って、6～9の段を構成しようとする。 【考】アレイ図を使って、6～9の段の構成を考えることができる。 【関】問題の場面を見て、進んで式化したり、問題文を作ったりしようとする。 【表】6,7,8,9,1の段の九九を確実に唱えることができる。
	30 34	6,7,8,9,1の段を使って課題に取り組んだり、作問したりして理解を確かにしたたり、深めたりする。	見 身の回りの6,7,8,9,1の段の乗法の場面の絵から6,7,8,9,1の段の九九が使えることを予想し、答えを見当づけるようにする。	【関】問題の場面を見て、進んで式化したり、問題文を作ったりしようとする。 【考】生活場面の絵を見て演算を決定し、作問することができる。

5 本時(15時間目)の学習指導

- 目標 ・かけ算の式をもとに、コンピュータを利用していろいろな場面での絵を考え、かけ算の問題文を作ることができる。
 ・友達と問題を吟味することで、よりよい問題作りの工夫を学び合うことができる。

学習指導過程

学習活動	相	予想される児童の反応	教師の支援等 課題解決能力 見見通し 共感性
<p>1 前時の復習をし、本時の課題を確認する。</p> <p>2 2×3の式になる絵を使い、問題を作る。 自分でコンピュータを操作し、絵を使って問題を作る。</p> <p>ペアで吟味し、よりよい問題にする。</p> <p>3 できた問題が、分かりやすく、正しいか全体で話し合う。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>つかむ</p> <p>つくる</p> <p>確かめる</p> <p>ふりかえる</p>	<p>今日は、コンピュータを使って 2×3 の式になる絵を描いて、問題文を作るんだな。</p> <p>2×3 の式に合った絵を考え、問題を作ろう。</p> <p>2×3 は、(2)の(3)つ分だから……………</p> <p>みかんで 車で 花で 人で ウサギで</p> <p>ペアの友だちと確かめ合おう。うまくできたかな。</p> <p>この絵は、3×2 になりそうだよ。2個の3つ分にしよう。</p> <p>むだな言葉があって、少し分かりにくいから、なくてもいい言葉は、のけよう。</p> <p>絵からは「1つ分の数」と「幾つ分」がよく分からないなあ。線を入れたらどうか。</p> <p>・絵図に描くときは、「～の幾つ分」をよく考えることが大事だね。 ・問題には、「1つ分の数」(～ずつ)と「幾つ分」が書いているよ。</p> <p>同じ式でもいろいろな絵図が考えられ、たくさん問題ができるんだな。 問題作りには、必要な言葉があることが分かったよ。 今度は、もっと難しい式でも挑戦したいな！</p>	<p>・前時は、絵から式に合った問題を作り、本時は、式から絵を考え、問題を作ることの違いをおさえる。</p> <p>課生活場面や既習経験を生かし、コンピュータのスタンプを利用して、式にあった絵を描き、問題を作ることを確認する。 見自分で考えることに困った場合は、ヒントコーナーで生活場面と結びついた具体物の操作をしたり、文章化できない児童のために、穴抜きのヒントカードを利用させたりして、「1つ分の数」と「幾つ分」が分かるように支援する。</p> <p>・T1は、つまずいている児童を中心にヒントコーナーや印刷機のところで支援する。 ・T2は、コンピュータの操作に困っている児童を中心に支援する。</p> <p>・T1T2共に、学びの姿勢度上配慮を要する児童の情報を伝え合い、より適切な支援をしていくように努める。</p> <p>評かけ算の式をもとに、コンピュータを利用して絵を考え、ペアの友達と問題を吟味しあう中で、よりよいかけ算の問題を作ることができたか。</p> <p>・いろいろな問題文を吟味する活動を通して、問題作りに必要な言葉に気付かせていくように支援する。 評友達の説明をよく聞き、同じところ、違うところ、いいところを考えながら、問題作りに取り組みめたか。</p> <p>共課本時の自分の課題解決の取り組み方や友達のがんばりについて振り返りカードにまとめさせる。</p>

5 本時(17時間目)の学習指導

- (1) 目標 ・ある数を「1つ分の大きさ」の「幾つ分」に気をつけ、ブロックの操作や図や式に表しながら調べる活動を通して、かけ算の意味の理解を深め、かけ算のよさに気付くことができる。
 ・友達との話し合いの中で、同じ数でも「1つ分の大きさ」が変われば、何通りものかけ算の式で表されることに気付くことができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	相	予想される児童の反応	教師の支援等 課題解決能力 見見通し 共感性
<p>1 前時までの復習をする。</p> <p>2 本時の課題をつかむ。</p> <p>(1) 自分の考えを、自分なりの方法で表す。</p> <p>(2) ペアの友達に紹介する。</p> <p>3 かけ算の式の表し方について、みんなで話し合う。</p> <p>4 18個の場合の並べ方をかけ算の式に表す。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>つかむ</p> <p>つくる</p> <p>確かめる</p> <p>ふりかえる</p>	<p>何の幾つ分がよく見れば、習ったかけ算の九九で何個あるかすぐ分かるよ。</p> <p>ばらばらになっているものは数えにくいな。かけ算が使えるようにきれいに並べよう。</p> <p>どんぐりをかけ算の式で数えられるようにならべよう。</p> <p>同じ数ずつまとめて、幾つ分できるか考えるといいんだな。</p> <p>2個ずつかたまりを作ったら、6つ分できたよ。だから 2×6 だよ。</p> <p>3個ずつで図をかいたら、4つ分だ。 3×4 になるよ。</p> <p>ブロックを並べてみると・・・4個ずつでも・・・6個ずつでも・・・できそうだな。</p> <p>・どんぐりの数の12個は、いろんなかけ算の式で表せるよ。 ・ 3×4 と 4×3、2×6 と 6×2 は、かける数とかけられる数が反対だ。 ・ 何の幾つ分あるかを考えると、かけ算が使えてたし算よりはやく数が数えられるよ。 ・ さんは、きれいに四角に並べているから、もっと数え易そうだな。</p> <p>・ 18個でもできそうだよ。2個ずつでも、3個ずつでも・・・ ・ 6個ずつや9個ずつ並べた時でも、かけ算になりそうだよ。</p> <p>・ 同じ数でも、1つ分の数が違うと、いろんなかけ算で表せるよ。 ・ たくさんあるものは数えにくいけれど、同じ数のかたまりを作ってきれいに並べると、かけ算が使えてはやく正確に数えられるよ。便利だな。 ・ もっと大きな数のかけ算をマスターすると、もっと便利になりそうだな。</p>	<p>・フラッシュカードで既習のかけ算が使える数あてクイズをし、「1つ分の数」×「幾つ分」を意識して数を見ることを確認する。</p> <p>課 幾つ分がはっきりしないランダムに並んだ12個のどんぐりの図をフラッシュカードで見せ、「なぜ数がすぐに数えられないか」考える場を設定する。その際、導入のフラッシュカードの数の並び方とどんぐりの並び方の違いを比べ「同じ数ずつ、きれいに並べると、かけ算が使える」ことに気付かせ、児童が本時の学習課題について把握できるようにする。</p> <p>見 既習の内容や考え方を補助黒板に残しておき、解決へのヒントとなるようにする。自分の考えを作る時の方法として、半具体物や図で考えたり、言葉でまとめたりする方法を紹介する。</p> <p>・自分の考えをもちにくい児童には、オープンスペースで実際にどんぐり等を動かす操作活動を取り入れ、「1つ分の数」と「幾つ分」がとらえやすいように支援する。</p> <p>・「10とばら2」という数え方の児童には、既習の方法を生かしている点について認めた上で、本時の学習課題の「かけ算」で考えるよう助言する。</p> <p>評 自分なりの方法で調べ、「1つ分の数」の「幾つ分」に目をつけて、かけ算の式に表し、ペアの友達に紹介できたか。</p> <p>共 友達の説明に関心をもち、自分との異同に気を付けてよく聞くために、聞く視点「ちがうところ・おなじところ・いいところ」を確認する。また、自分が考えていたかけ算を発表した友達の名前をワークシートにメモしながら聞くようにする。</p> <p>評 友達の考えに関心をもって聞き、考えの異同を見つけることができたか。</p> <p>・かけ算の式を発表させて、他の数でもいろいろな式に表されることをおさえ、かけ算の意味理解の定着を図る。もし、分割し2つのかけ算の和で表している児童がいれば、発展的な考えとして紹介する。</p> <p>共 課 本時の自分の課題解決への取り組みや友達のがんばりについて気付いたことを振り返りカードにまとめるようにする。</p> <p>・児童の「算数日記」から、給食の牛乳パックの数など全体の数がはっきりしない物を同じ数ずつ並べ直してかけ算を使っている生活場面を紹介し、かけ算のよさを感じ取らせるとともに、6の段の九九(かけ算(2))からの学習への意欲を高めたい。</p>

5 本時（22時間目）の学習指導

- (1) 目標 ・何個のいくつ分のかけ算の考えにあてはめて文章題を式化し、6の段の九九を使って文章題を解くことができる。
 ・かけ算の式にすることや九九を使って答えを出すよさを話し合う活動を通して、自分や友達の考えのよさを感じ取ることができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	相	予想される児童の反応	教師の支援等 課題解決能力 見通し 共感性
<p>1 学習のめあてを確認する。</p> <p>2 自分が考えた方法で、九九を使って問題を解く。</p> <p>(1) 問題文を読み、題意をつかむ。</p> <p>6こ入りのチーズのはこが4はこあります。 チーズはぜんぶでなんこありますか。</p> <p>(2) 自分で問題を解く。</p> <p>(3) ペアで話し合う。</p> <p>(4) 全体で話し合う。</p> <p>(5) 学んだことをもとに、他の問題文を解く。</p> <p>3 学習の振り返りをする。</p> <p>4 チャレンジ問題に挑戦する。</p>	<p>つかむ</p> <p>つくる</p> <p>確かめる</p> <p>ふりかえる</p>	<p>この前は5の段の九九を使って文章問題を九九で解いた。今日は、6の段に挑戦してみよう。</p> <p>かけ算をつかって問題を解こう。</p> <p>6×4 6個の4つ分 6の段の九九だ。</p> <p>4×6 4個の6つ分 4の段の九九だ。</p> <p>この問題文は、かけ算の式に表すことができそうだ。だから、九九を使って答えを求めることができそうだ。友達は何の段の九九を使ったのかな。</p> <p>1つ分が6個な 6の段の九九が使える式になったよ。 1つ分をよく考えて何の何個分と考えると式が正しくなる。 九九を使ってはやく簡単に答えを出すことができた。 ほかの問題もはやく正しく解きたいなあ。</p> <p>かける数とかけられる数を入れかえると、意味が違ってくるよ。だから問題を解くときには式が大切だよ。反対ではいけないよ。何の幾つ分かよく考えて式を作り、九九を使って速く答えを出そう。</p>	<p>・6の段の九九をペアや班で唱え、6の段の九九を上手に覚えようとしているペアを賞賛し、意欲化を図る。</p> <p>①問題の場面の図を提示し、問題を具体的につかませ、5の段のときのようにならぬ九九を使ってできるか問いかけ、本時の課題に迫らせる。</p> <p>・解決にとまどっている児童には、半具体物を用いながらいくつずつ増えているのか考えさせたり、自力解決に導いたり、ヒントカードを与え解決の糸口とする。</p> <p>・5の段で学習したことを思い出して考えを進めている児童に対して称賛し、前の学習を生かすことの大切さに気付かせる。</p> <p>②式化の方法を確認できるように既習の段の式化の仕方の観点を掲示しているものもヒントにしていことを助言し、自力解決の手助けとする。</p> <p>③自分の解き方をペアに半具体物や図を書いたノートを用い説明することで自分の考えをはっきりさせ、自分の考えに自信をもたせる。</p> <p>④自分の考えをペアの友達に分かりやすい言葉や方法で半具体物やノートを見せながら分かりやすく伝えようとしているか。</p> <p>⑤乗数が1増えるごとに、積が6ずつと4ずつ増えていくことに着目しているペアに発表させ、図や絵と増え方を確かめ合わせる。4ずつ増えている考えのよさも認め合わせながら6の段のかけ算の式と図とがびったり合うことの大切さを意見交換の中から見つけさせる。</p> <p>・他の文章題をノートに解き、本時の6個の幾つ分に習熟する。</p> <p>⑥基準量を正しくとらえて、式がかけたか。また、九九を使って正しくはやく解けたか。</p> <p>⑦能力に合ったチャレンジ問題に挑戦させ、文章題に対する読み取りを深め、九九を使って答えを出すことに習熟させる。</p>

5 本時（23時間目）の学習指導

- (1) 目標 ・累加や乗数と積の関係・交換法則等を用いて、7の段の九九を構成することができる。
 ・7の段の構成の仕方について話し合い、いろいろな方法があることを理解することができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	相	予想される児童の反応	教師の支援等 ㊦課題解決能力 ㊧見通し ㊨共感性
<p>1 学習のめあてを確認する。</p> <p>2 自分が考えた方法で、7の段の九九を作る。</p> <p>(1) 7×1から7×6までを作る。</p> <p>(2) 7×7を工夫して作り、紹介する。</p> <p>(3) 7×8、7×9を作り、ペアで確かめる。</p> <p>3 学習の振り返りをする。</p>	<p>つかむ</p> <p>つくる</p> <p>確かめる</p> <p>ふりかえる</p>	<p>6の段をみんなで作ったよ。7の段も作れるかな。</p> <p>いろいろな仕方で7の段の九九を作ろう。</p> <p>7×1は7の1つ分だから7だ。7×2から7×6までは、今までの九九を使って答えを求めることができそう。</p> <p>7×7の答えを出そう。</p> <p>$7+7+7+7+7+7+7+7=49$ $7 \times 6+7=49$ $7 \times 5+7 \times 2=49$</p> <p>7×8と7×9も、7×7の答えを求めるのと同じ方法で作れそう。</p> <p>できたよ。隣の友達はどうやったのかな。比べてみよう。</p> <p>6の段と同じで、かける数とかけられる数を入れかえて作ると、とてもはやくできるよ。7の段は、7ずつ答えが増えていよ。かける数を分けると、今までの九九が使えるよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 6の段の九九の構成の仕方を振り返り、同じような方法で作れそうだという見通しをもつようにする。 $7 \times 1 = 7$を確認する。 ㊦ 7×2から7×6までは、答えが7ずつ増えることや乗法の交換法則を使ってできることを確認し、同じ方法で7×7も作ろうという意欲をもって取り組めるようにする。 7×1から7×6までをワークシートにまとめる。 7×7はアレイ図を見て、幾つずつ増えているのか考えさせたり、7×6と比較させたり、分配法則に気付かせたりして、自力解決に導く。 解決にとまどっている子どもには、$7+7+7+\square+\square+\square+\square=\square$のヒントカードを渡して、具体的に7の幾つ分か考えられるようにする。 分配法則を使って作っている場合は、乗数を5と2に分けているよさを話し合う場をもつ。 ㊧ 7×7の作り方を紹介し合うことにより、7×8や7×9の作り方の見通しをもつ。 累加、分配法則の方法を適時用いながら自力解決を進める。 ㊨ 乗数が1増えるごとに、積が7ずつ増えていくことに着目して構成できることや分配法則を用いても構成できることを確かめ合う。 友達の作り方のよいところを見つけて書く。 ㊦ 7×7のいろいろな作り方に気付くことができたか。 7×8と7×9の作り方をワークシートにかきこむ。 ㊦ 九九の作り方を自分の言葉でワークシートにまとめられたか。

「めざせ！かけ算名人（かけ算）」

1 提案の主張点

本単元で育てたい数学的な考え方は、

- A 学習にかかわる数学的な考え方
 - B 問題解決の過程にかかわる数学的な考え方
 - C 実生活での合理的な営みを支える数学的な考え方
- である。個に応じた指導として、既習事項を教室や算数コーナーに掲示したり、具体物を捜査する活動を多く取り入れたりした。さらに、コンピュータを取り入れたT・T指導も取り入れた。また、課題解決能力と共感性を培う単元計画や場面設定の工夫も行った。

2 - 1 「おやっ」と思うような場面を設定し学習意欲を高めている。自力解決の時間を確保し、自分の考えをしっかりとったうえで、話し合うようにしている。

2 - 2 日頃から、間違ふことはよいことだと言っている。自分の考えをペアで話し合うことで、お互いのことを次第に知ることができると考えている。

2 - 3 自分の考えをペアで話し合い、考え方の良さをペアの児童に紹介してもらうことにより、自信をもたせたいと考えている。

2 - 4 2×3 の問題作りがうまくできない児童にはヒントコーナーの具体物を操作させて、考えさせた。作った後、ペアで問題を修正する時間を設けた。

2 提案に対する意見

Q 2年生において課題を具体的にもつということを教師としてどんな風に把握できているのか。

A 授業後、または授業中に児童にアンケートを取って本時の学習問題をきちんと理解しているのかどうかを知ることができる。

Q ペア学習は、共感性を培うために有効だったか。

A 自分の考えをしっかりとった後、ペア学習を取り入れると、自分の考えを分かりやすく伝えようとしたり、友達の考えをしっかりと聞こうとしたりする態度が育ってきているので、課題をみんなで解決しようという雰囲気になる。

- ・ 児童が発表する際に既習内容をきちんと入れて話すことができていた。これまでの学び方が生かされていたと思う。
- ・ 「だって・・・」など接続詞を使って発表できてい

る児童が多くいた。

Q いつも集団でどう考えを練りあげていっているのか。

A いろいろな考えを前に出して、類型化をしていく。そして、今回はどこが同じか、またはどこが違うかを見つけていっている。

- ・ 九九を唱えるだけでなく、工夫して学んでいたので、ぜひ自分の学級でもやってみようと思う。
- ・ 間違った考えを取り上げた時の取り扱いが難しいと思うが、今日は、「～さんは、～な風に言いたかったんじゃないかな。」と上手にフォローをしていた。

A 「まちがっても良い」という詩をいつも読んで、クラスみんなが互いに直し合っていくから大丈夫と声かけをしている。

3 御指導

毎日の積み重ねが、どのクラスの授業からも感じられた。学級経営をきちんとしておくことが大切だなあと改めて感じさせられた。

2 - 1 パソコンを上手に利用し、視覚的に「おやっ」と思わせることが有効であった。そのことで児童の意識をつかみ、一人一人の考えをしっかりとらせることができた。

2 - 2 まちがった考えをもった児童を取り上げ、上手に考え方に深まりや広がりをもたせることができた。担任の話にもあったように、日頃から、まちがっても大丈夫なんだという指導があつてのことだと思う。

2 - 3 7の段の九九を作る際に、既習事項でつかえるほ方法はないかと考えたり、いろいろな考えができたらいんだよという保障をしたりできていた。

2 - 4 パソコンで図を作り、ほとんどの児童が 2×3 の式にあうような問題作りができていた。～ずつという言い方がきちんとできていた。

集団の練りあげも大切だが、一人一人の学びを保障していくことが、算数嫌いをなくすことに必要だと思う。ペア学習の際のマニュアルを作っただけではどうだろうか。また、いつもペアではなく、計画的に取り入れる時とそうでない時を考えておくと良い。学年の重点事項を決めてそれに近づけるためにどんな指導が必要かを考えていることは素晴らしい。

